

研究成果のプロデュース

知的財産本部長 吉国 信雄

研究成果のプロデュースといった言葉を聞いたことがありますか？この役割を語らずして、大学における知的財産活動を語れないのではと強く感じています。

大学での知的財産活動の基本は、発明の発掘ですが、ふと気が付くと、医学部、理学部、工学部、自然科学分野のみならず、社会科学の分野を含む幅広い分野の研究者とのお付き合いが始まっているわけです。部局という名の壁を越え、研究室という名の壁を越えて、縦横無尽に研究者の方との繋がりを形成する活動と捉えれば、これまでの大学では存在し得なかった活動であるといえるのではないのでしょうか。

+ ビジネスクリエイト工房

金沢大学の研究成果を活用しての事業創造をテーマに、20人ほどの受講生を産業界および自治体から募り、事業創造セミナーを平成17年1月から半年間、隔週で実施しました。

このセミナーの大きな特徴は、「技術分野の壁を越えると、知財は更に羽ばたく。」をテーマとして、分野を超えて新たなビジネスを創出しようとする大胆な試みでした。受講生の出身が産業界、自治体、大学関係者であったことを考慮すれば、結果として産学官連携のショーウィンドウとしての性格を有していたものと考えています。

この活動をさらに発展させ、多くの研究者を巻き込んだ研究戦略の創造が研究成果のプロデュースです。

ビジネスクリエイト工房 H17.1~17.7

地元企業人を巻き込んだの
研究成果活用セミナー



図1 技術分野の壁を越えると、知財は、更に羽ばたく。

+ 研究成果のプロデュース

ビジネスクリエイト工房の成果を更に発展させ、より多くの研究者を巻き込んだプロジェクトが、医学系研究科（保健学専攻）の研究者を中心に、今年度からスタートすることとなりました。「健康支援システムの構築を目指した健康指標モニタリング法の開発」をテーマとして、他の分野の、医学系研究科（医学）、自然科学研究科（工学）や経済学部の研究者との横断的連携がスタートしました。部局の壁を越えた活動が本格化したのです。

今回の取組は、多くの研究者を巻き込んだ研究連携を通して、国や自治体との更なる連携を実現し、企業との共同研究等の産学連携活動を活性化させることによって新たなイノベーションを構築しようとするものです。知的財産の活用戦略に関しては知的財産本部が主導的役割を期待されるでしょうし、そうした戦略を明確に展開できなければ逆に、大きな舞台設定での研究連携を進めていくことは不可能と考えています。

金沢大学の研究成果を最大限に活用するための舞台

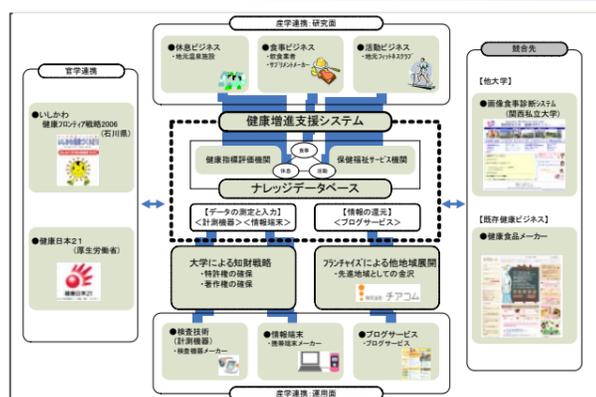


図2 健康支援システムの構築を目指した健康指標モニタリング法の開発

作りとでも言えばいいのでしょうか。

そして、戦略的な運営を実現するため、大学発ベンチャー企業にも積極的に関与してもらうことも有益ではと考えています。研究者群と企業群とのインターフェースとしての役割を、例えば、キャッシュフローに基づいた議論のように、今までの大学の弱点であった分野での活躍が期待されています。

金沢大学における spam メールの現状

情報部情報企画課

総合メディア基盤センター情報基盤部門 松平 拓也

インターネットの急速な普及に伴い、電子メールはコミュニケーションツールとして欠かせない存在となっています。しかしながら、相手のアドレスが分かればいつでもすぐに送信できる、送信するのにほとんどコストがかからないといった利便性を逆手に取った spam（迷惑）メールが増加の一途を辿っており、電子メールの利便性を脅かす存在となっています。この spam メールは脅威はますます激しさを増しており、電子メール配信にかかる負荷の増大が深刻な問題となっています。

+ 金沢大学の現状

金沢大学も例外ではなく、昼夜問わず世界中から spam メールが大量に送信されてきています。以下の図は2005年3月から2006年10月までに金沢大学に到来したメールの内訳を表しています。この図から分かるように、2005年3月では1日当りの全到来メール約4万件中、約2~3万件を spam メールと判断しています。そして spam メール数は急激に増加の一途を辿り、2006年10月では全到来メール約18万件中16~17万件を spam メールと判断しています。このように昨春から今秋までで spam メール数は約8倍に膨れ上がっており、非常に深刻な状況になっています。

さらに図の折れ線グラフは spam メールの実在アドレス宛の割合を示しています。2005年3月では検知した spam メールうちの約15%のみが実在するアドレス宛でしたが、2006年9月以降は50%を超えていることが分かります。このことから、spam メール送信者はある程度実在するアドレスを把握しており、実在するアドレスに対して spam メールを送信していることが伺えます。

+ spam メール送信者によるメールアドレス収集の方法

ここで、spam メール送信者が行っているアドレスの主な収集方法を2つ説明します。1つは、考えられる全てのメールアドレスに対して内容の無いメールを送信し、エラーメールが返ってくるかどうかでアドレスが実在するかどうか判断する手法があります。もう1つは Web 上からの収集です。例えば、ホームページ上にアドレスを掲載していた場合は自動アドレス収集ツールによって収集されます。また、メールマガジン等の会員契約、懸賞サイト等で入力したメールアドレスは本来目的以外に流用されたり、不正に使用されたりする危険性があります。後者に関してはユーザ側である程度対策を行うことができると考えます。

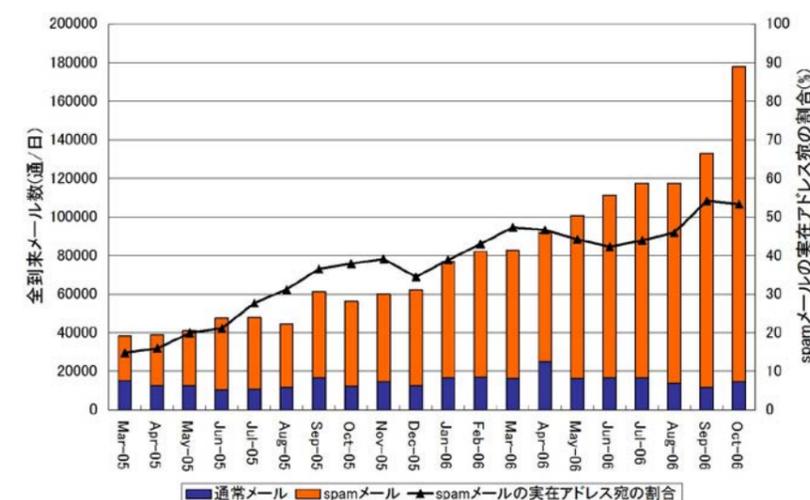


図1 金沢大学への全到来メール数及び spam メールの実在アドレス宛の割合

+ 管理者、ユーザ双方による対策を

金沢大学ではメール配送経路の途中に spam チェッカを設け、spam と判断したメールは隔離を行い、ユーザのメールボックスが spam メールで溢れかえることがないようにしていますが、spam メールは今後も増大していくこと推測されるため、メールサーバ管理者、ユーザ双方が spam メール対策に取り組む必要があると考えられます。